

2.施設の考え方

施設をとりまく状況

本市は、人口約 13.5 万人、面積約 139 km²を有する、南房総東京湾岸に位置するまちです。江戸時代には町人文化が流入し、歌舞伎「切られ与三郎」や木更津甚句が誕生しました。かつては港町として栄え、現在も陸上交通における交通の要となっています。また、市内には公民館が全 16 館あり、各地区ごと、さまざまな活動が行われています。

近年、東京湾アクアライン通行料金の引き下げや、大型商業施設等の出店、住宅地整備の進展等を背景に、人口は年々増加しており、特に子育て世代の流入が増加しています。市全体としては少子高齢化が進行しており、将来人口については、令和 8 年をピークに減少に転じると予想されていますが、交通体系や商業環境について利便性の向上が進んでいることから、当面は新たな転入が見込まれます。

また、通勤に関しては千葉市内やアクアライン対岸地域への流出傾向が強い一方、通学に関しては流入傾向が強く、周辺市町村から多くの学生が市内の学校へ通学していることが伺えます。

施設に期待されること

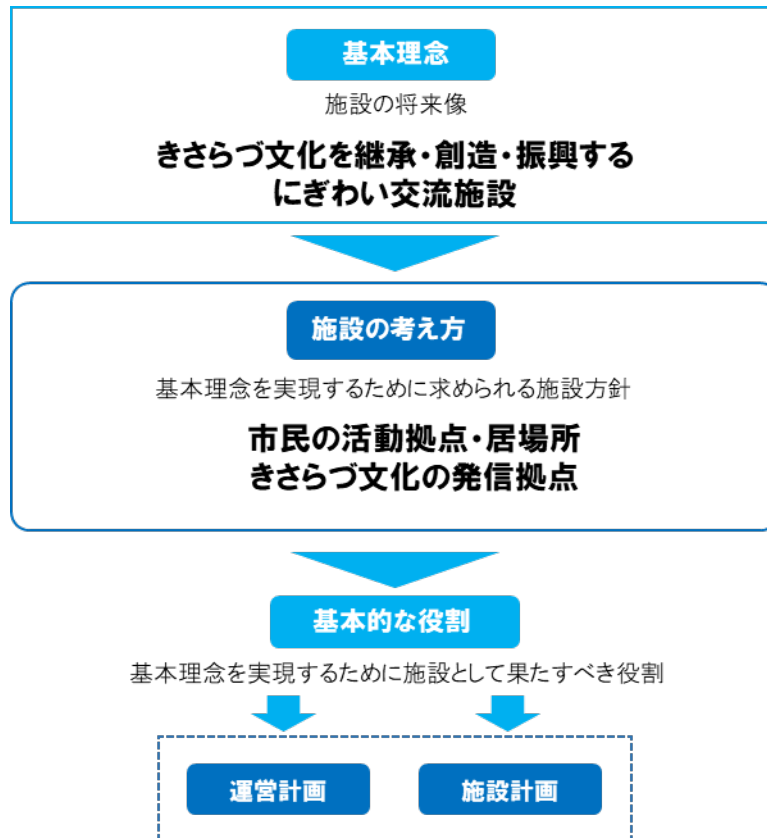
上記のような背景から、市内には昔から木更津に住んでいる人、新しく木更津へ移ってきた人が混在しており、その世代は多岐にわたります。特に子育て世代が新たに増え、さらに学生は市内外から集まってきています。こうした新旧住民、子どもから高齢者までのさまざまな世代、そして市内外を超えた、あらゆる人のための交流や文化活動の場が必要です。

また、現在市内では中心市街地活性化をはじめとした複数の他事業においても、にぎわい空間づくりに取り組んでいます。これらの他まちづくり事業との連携を図りながら、中規模ホールの施設周辺を含めたエリア全体が、市民の芸術文化活動を通じたにぎわいづくりをけん引していくことが期待されます。

施設の考え方

これらをふまえ、中規模ホールは、基本理念に掲げられている「きさらづ文化を継承・創造・振興する にぎわい交流拠点」として、市民の「活動場所」「居場所」となることを目指します。施設全体が交流施設として機能し、市民が主体的に利用する活動拠点として、用事がなくても日常的に人々が立ち寄り、さまざまなところで交流が生まれる施設を目指します。

そこでは交流だけでなく、地区ごとの歴史文化やさまざまな活動を共有し、次世代へとつなげていき、この「にぎわい交流拠点」が、木更津のまちを持続可能なまちへと先導していく存在となることを期待します。



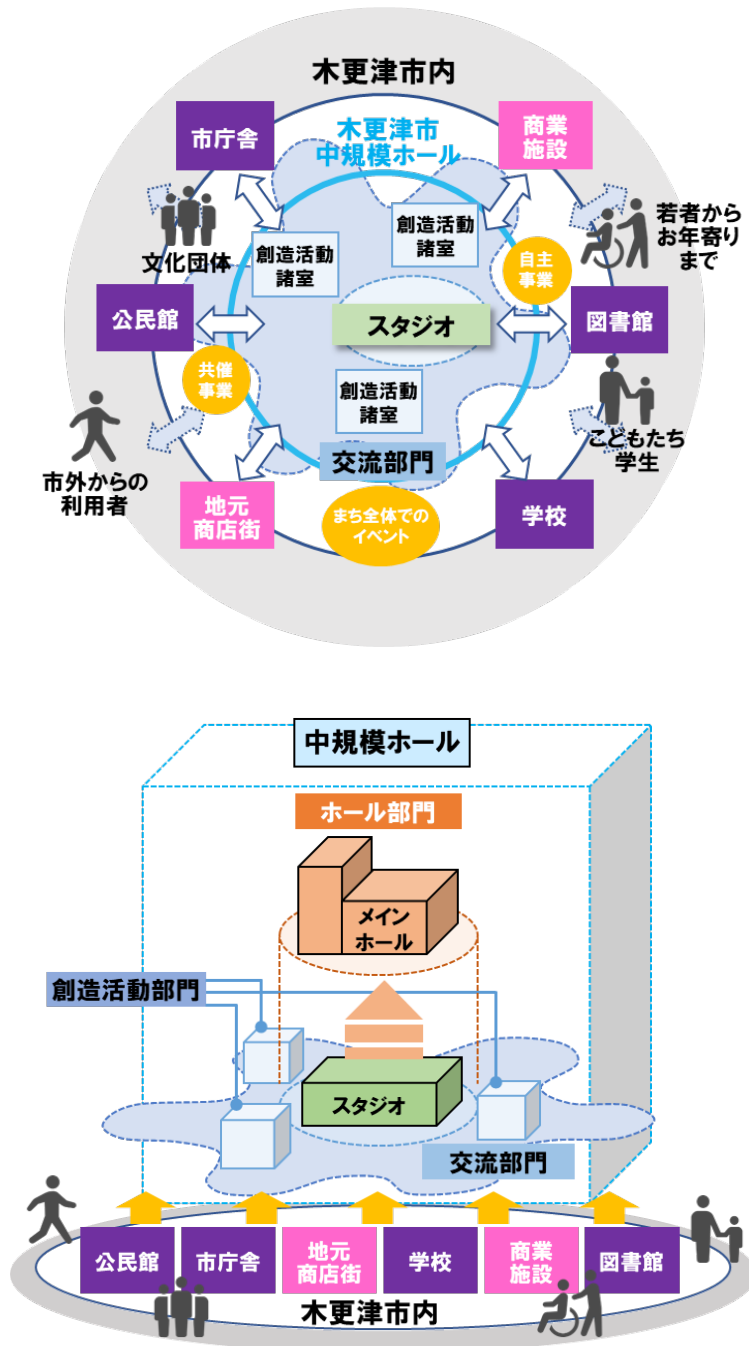
【施設の基本的な役割と具体的に想定される運営・施設計画】

基本的な役割	運営計画	施設計画
①市民による芸術文化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 市民参加型事業の実施 各団体とのネットワークづくり 自由に利用・参加できる芸術文化事業 	<ul style="list-style-type: none"> 練習・リハーサルのスペース 発表の場(ホールなど)、充実した設備
②市民が優れた芸術文化に触れる機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞事業の実施 普及・育成事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞環境の優れたホール 舞台特殊設備
③幅広い事業の提供による芸術文化の振興	<ul style="list-style-type: none"> 創造型事業の実施 ワークショップ・アウトリーチ等 普及型事業の実施 専門知識のある人材の登用 	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ・講習スペース 学校イベントへの会場提供
④市民の日常的な交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> 施設 HP や情報誌による広報活動 市民活動状況の収集 他施設との情報連携 市民サポーター組織 	<ul style="list-style-type: none"> 文化活動状況紹介スペース 市民活動団体の拠点スペース チラシ・ポスター展示スペース
⑤地域文化の継承と持続的な発展	<ul style="list-style-type: none"> 地域文化に関連する事業 地域文化アーカイブ対応 	<ul style="list-style-type: none"> 地域情報の展示スペース 地域文化発表の場 まちイベントへの会場提供
⑥芸術文化を通じた社会やまちとの関わりづくり	<ul style="list-style-type: none"> 芸術文化と社会をつなぐ人材の育成 体験事業・ロビーコンサート等の事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> 目的がなくても立ち寄れるオープンスペース まちへ開いた施設デザイン ユニバーサルデザイン

施設機能の考え方

中規模ホールでは、市内外の公共施設や民間施設との連携事業の開催や、施設周辺の市内まちづくり事業との連携、地域全体でのイベント開催等を通して、施設とまち全体が連携し、文化・にぎわいづくりを進めていきます。

施設全体を交流施設として位置付け、ホール、創造活動、交流、管理運営の4つの部門を設置します。施設全体を含む交流部門、まちへ開いた創造活動部門を設置し、さまざまな活動に対応します。さらにホール部門を設置し、市民の晴れの場として700席規模のメインホールを設置します。市民団体からプロまで、さまざまな人が利用する、文化の継承・創造・振興拠点として、木更津市内外の芸術文化活動を先導し、高めていく存在を目指します。



3. 施設計画

(1) ホール部門

メインホール

メインホールは舞台芸術に重点を置き、文化団体や学校利用をメインに想定した、音楽利用性能を向上させる技術を取り入れた多機能ホールとします。

- ・収容人数：700人程度（客席1～2層）
- ・文化団体や学校利用をメインに想定します。
- ・各種音楽、ダンス、演劇等が十分に行える舞台広さ、演出環境を確保します。
- ・客席は良好な鑑賞環境を確保するとともに、催しの規模に応じて、小人数でも良好な雰囲気を利用できるように工夫します。
- ・客席可変については今後の検討とします。
- ・障害のある人や親子の利用に配慮します。
- ・ホワイエはゆったり過ごせる空間とし、十分な数の客用トイレを確保します。
- ・良好な搬入環境、十分な規模の倉庫等を確保します。
- ・楽屋は利用人数にあわせて使える最小限の構成とし、大人数の場合は他の部屋を利用することを想定します。

分野	具体的に想定される諸室など	想定面積
客席関係	客席、親子室、車椅子席など	2,800 m ²
ホワイエ関係	ホワイエ、主催者事務室、客用トイレなど	
舞台及び舞台裏	舞台、備品庫、搬入ヤードなど	
技術諸室	調光操作室、音響調整室など	
楽屋関係	楽屋、スタッフ控室、楽屋用便所、備品庫など	

- ・想定舞台寸法は下記の通りとします。
 舞台寸法：36m×18m、主舞台 W14.5m（8間）×D14.5m（8間）程度
 音響反射板：音響反射板を設置し、観客と演奏者自身への音響に配慮する
 舞台袖：搬入出や出演者の控え場所等を考慮し、上手・下手とも十分な広さ

